

GSI キャラバン研究プロジェクト名：
市民的公共圏と多様化する歴史認識－ヨーロッパとアジアにおける記憶と和解

研究代表者：
大学院総合文化研究科・地域文化研究専攻・教授・石田勇治

○2020 年度研究計画

2020 年度については、海外渡航ができない前提で研究計画を策定する。まず5月中に日本側研究メンバー8名で、第一回オンライン研究会を実施する。この研究会では、ヨーロッパとアジアを専門とする研究メンバーが、「ヨーロッパとアジアにおける記憶と和解」をめぐる諸問題を議論するための共通の枠組みを再検討し、確認する。その後は必要に応じて研究会などを通じて、本研究プロジェクトの基本的概念（「和解」「歴史・記憶・想起」「市民と市民社会」「市民的公共圏」「パブリック・ヒストリー」等）を、ヨーロッパとアジアそれぞれの経験から批判的に検討、相対化し、分析概念としての精緻化を目指す。12月にベルリンで予定されていた、キャラバン訪問先大学の研究者らとキックオフパネルについては、同時期にオンラインでの実施に変更する見通しである。このパネルでは、本研究計画が最終的に目指す「グローバルな視座の獲得」を視野に入れたうえで、「記憶と和解」をめぐるローカルな諸問題に焦点を当て、各パネリストによる報告ののち、参加者全員による討論をおこなう。パネリストの報告と討論の概要を、21年度発行のドイツ・ヨーロッパ研究センターのジャーナル『ヨーロッパ研究』に掲載する。2020年度終了までに、今年度の研究活動と成果を総括し、来年度の研究計画をまとめるため、研究会を開催する。